

■ 講評

食生活に関する情報は数多く提供されているが、もっぱら文字や映像など視覚によるものであることから、視覚障害者においては、生活の基本である食生活改善が著しく立ち遅れていることに着目し、昭和59年から任意団体として食生活にかかる情報提供や環境づくりの促進等の活動を開始、その後、高齢者も対象として、積極的な活動を展開している。

高齢者や障害者の方々からヒアリング及び有識者による検討会の開催等を積み重ね、食のノーマライゼーション実現のための具体的取り組み方策を行政関係団体・企業等に対して提言を行ってきた。また、介助に際し、どんな対応が適切かを視覚障害者の立場から記述した視覚障害者のサポートマニュアルの刊行、高齢者や障害者にも使いやすい食品の容器包装について紹介したビデオテープの作成、高齢者や障害者も安全で安心して、しかも楽しく手際よく毎日の食生活に取り組めるためのカタログ集の刊行など、高齢者や障害者等への利便性の高い情報提供を行う等バリアフリー化の推進に係る継続的な活動を通じ、高齢者や障害者の自立化及び社会参加の促進に寄与してきた。



広報活動



バリアフリーに関する様々な普及啓発資料